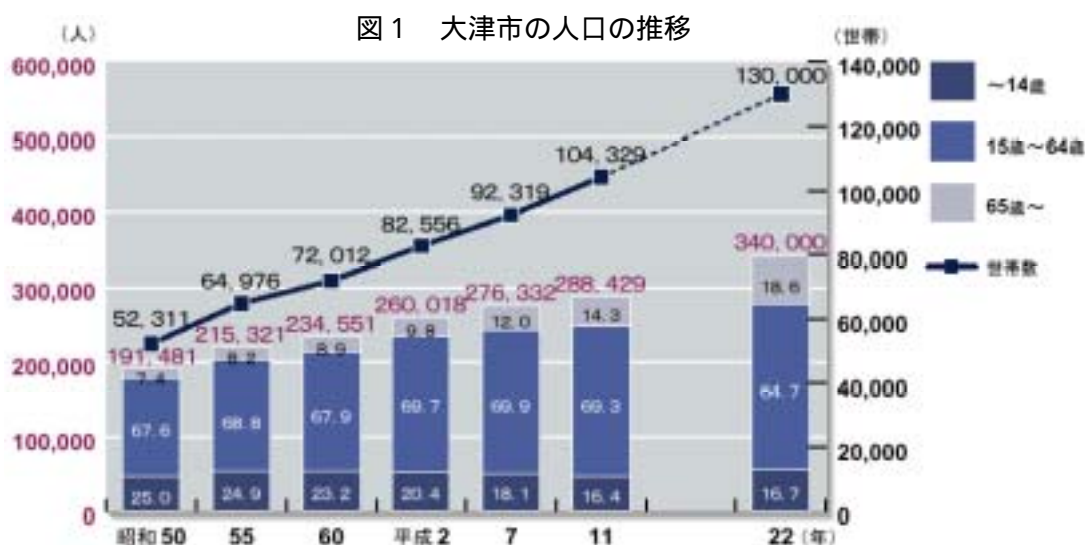


大津市の現況について

大津市の人口推移ならびに土地利用の動向

1) 人口の推移

国内の人口伸び率の鈍化や京都市など周辺都市における人口の伸び悩みや減少予測があるなかで、大津市では京都・大阪のベッドタウンとして今後も人口増加を見込んでいる。



資料:昭和50年～平成7年は「国勢調査」、平成11年は「大津市統計年鑑」

2) 土地利用の推移

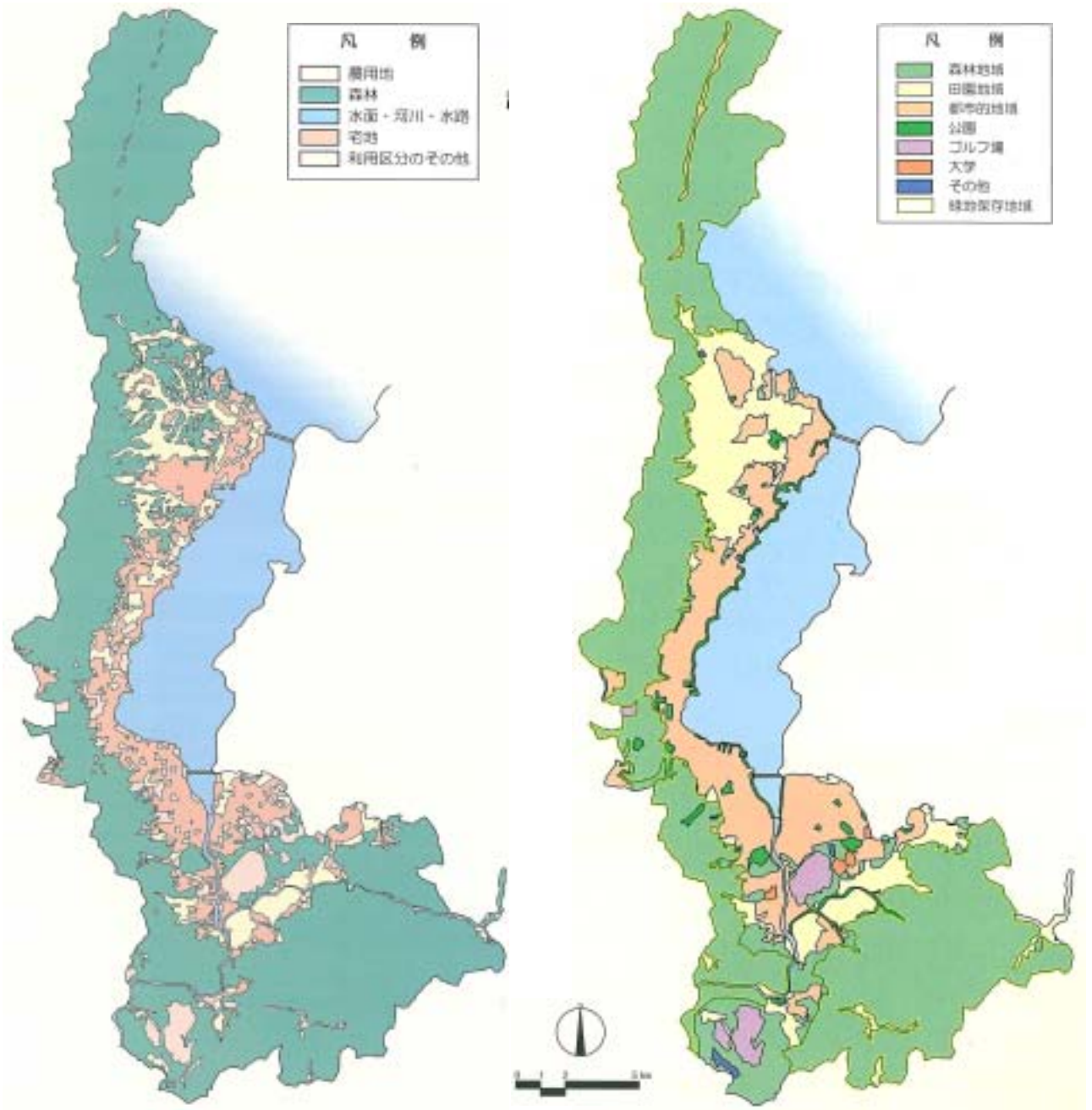
大津市の市域は南北に細長い形状をしているが、その西部は森林がまとまって分布しているが、湖岸に面する東部の低地には市街化が進んでおり、その中に農地が小規模分散して残存している。昭和51年～平成14年までの土地利用変化をみると、田、畑、山林の面積減少が著しく、宅地の拡大化が進行している。こうした土地利用変化とあわせて市街地(人口集中地区)面積が拡大しており、昭和51年当時と比較すると平成14年には約1.7倍になっている。

表1 土地利用面積の推移

利用区分	単位	昭和51年	昭和64年	平成14年
田	h a	3,112	2,608	2,237
畑	h a	349	308	270
山林	h a	8,543	7,927	7,484
原野	h a	247	199	157
雑種地	h a	431	817	736
宅地	h a	2,001	2,215	2,585
市街地(人口集中地区)*	h a	1,920	2,900	3,300

*市街地面積は昭和50年、昭和62年、平成12年調べ、資料:「大津市統計年鑑」

図2 土地利用現況（左）および土地利用構想（右）



3) 人口集中地区 (DID) の拡大状況

人口集中地区は、琵琶湖岸を中心に南北に拡大していることが分かる。

図3 人口集中地区 (DID) の拡大状況



4) 農家人口と専業・兼業別農家戸数

農家人口および農家戸数は減少を続けており、農地の減少と合わせて、田園的景観の保全の担い手が減少していることを示している。

図4 農家人口および専業・兼業別農家戸数の推移

